

徒然の記

このところの我々を取り巻く自然のこと、人の世のことなど、尋常でないことがあまりに多く、われもまた先人の思いしごとく「徒然なるままに・・・」と、己の思いを綴ってみようと筆を執った。思いのままに、思いしときに、書き綴るものであれば、他愛もないこととして、読み流してもらえれば尚良し。

然れども、この一葉を読みし者よ、思いあらば、彼の思い聞かせ給へ。空ろに散じてしまうメールというものが良からう、以下に散らせ給え。 macoto@mtg.biglobe.ne.jp

[2011年7月6日(水) 記]

2019年6月10日

キリスト教の普及率が世界的に見ると少なくとも30%以上と言われているが日本では1%以下となっているようだ。最近キリスト教関係者と聖書の神「エホバ」についていろいろと話を聞いている。日本のキリスト教普及率の低さについて最近この原因を考えている。どうもこの原因は一神教と多神教の違いではないかと思えてきた。キリスト教の神は世界を神が作ったとされ、自然も神が作り、そこにある生物も神が最初に作ったとされる。多分他に現れる神も悪魔も結局のところ神が作り、最後の人間も神が作ったとされているようだ。ところが日本では確かに最初日本の大地を神が作り、最初の人間も神が作ったが、そのあとは成生に任せているように思える。多神教で生まれてくる神は最初の神が作ったのではなく、人間が作ったのではないかと考える。例えば熊は人間以上の身体能力があり、恐ろしいものだから、このためこうした人知を超えるものを神として読んでしまった。熊の神様だ。このように人知をこえたものをすべて神として識別し敬ったり、恐れしたりする対象としてしまった。すなわち八百万の神は殆ど人間作ったものとなった。このようにほとんどの多神教の世界では神は人間が作ったものとなっている。ここがキリスト教のような一神教、すなわちすべてが神によって作られた世界と認識している宗教と、日本のような人間が神を作ったと思える多神教との大きな違いがあるように思える。キリスト教では人間は神が作ったものであるから、神が気に入らなければすべてを滅ぼしてやり直すことになるが、人間作った多神教の世界ではそうはいかない、つまり人間社会を支配する者がいないのだ。こうした考えになじんでいる日本社会に一神教的な神はなじまない。勿論昔から日本人は賢かったことも一つの原因かもしれないが根本的なところでは前述した神の認識の違いが大きな影響を与えているのだと思う。多分キリスト教圏の人々より、日本人の方が自然を愛する気持ちも強いのだろうと思う。自然環境を見て自然の中に人の在り方を考えたりするのもこうした考え方の大きな差があるのではないかと思う、キリスト世界では自然は人間がこんとろーする対象だが、日本人の世界では人は自然に生かされているという考えもこうしたキリスト教世界との違いが表れているのではないかと思う。

まだ以上の考え方がすべてまとまったわけではないのでもっとよく考えていかねばならないと思うが、この考えは世界で戦争を遂行する連中はキリスト教的な考えかた、さらに一神教を信じている連中が起こしやすいのではないかと考えている。この点ももう少し詰めていきたいと思う。

2019年5月29日

最近ある宗教団体の勧誘者と話をしている。特にそうした宗教団体に加わるつもりはない旨の意思表示をさせていただいているが、それでもいいということで何度かお会いしている。

私も聖書がどんなことを言っているのかを宗教というより、一つの考え方としてとらえているため、参考とさせていただいている。私が高校生時代から考えてきたことを披露して意見を伺いたいと思っており、以下のようなことを昔の雑記帳より引き出して整理してみた。テーマは「私の考える世界認識」ということで、高校生のころから何で人は戦争をしてしまうのだろうかという疑問に思っていた。多分対立する2国の個々人は皆が戦争は無意味だと思っているのだろう。それぞれの国の人がお互いにもっと理解しあうことはできないのだろうかと思ったことが、私の考え方の発端となっている。では世界の認識というものを私はどう考えているのかを以下に示そう。まず世界の構造というものを下記の図1, 2, 3に示す。これは私が考えている世界観でもある。図1, 2, 3に分類の1例を示したが分類はもう少し

細かく分けてもよい。

この構造はわれわれの意識が以下に示すレベルわけができ、レベルは下がるにつれ我々の深層意識に到達すると考える。

一番最下層には図3に示すサムシンググレートと一般に言われるような我々の考えでは計り知れない何かがあると考え。よく言われる神とか無意識の領域である。

例えば図1に示すように、私と貴方。これは全く個別の存在であり、基本的には同じ状態になれない。すなわち分かり合えない、理解できない存在である。しかし分かり合うことはできると考える。このためにはお互いがレベルを一段下げて共通する母体の中で考える必要がある。個々の例では同じ日本人同士、ということだ。逆にこのレベルまで意識を深めないと、分かり合うことなど不可能だ。この共通したレベルで理解し合わないとは時迄たっても喧嘩ということになる。

今世界中で起きている民族紛争は、いわゆる同じ人間じゃないか！というレベルまで意識を深めないことにはこの紛争は収まらない。この共通意識まで意識を深めたところで、協調して暮らすことを考える必要がある。

日本人は昔から自然との交歓を行ってきたと言われる。こうしたことも意識レベルを更に深くすることにより成り立つ。小鳥の気持ちがわかる、木と交歓し合える。路上の石とも話ができる。こうしたことは現実可能なのだと思う。やはりこれらと共通の意識状態。例えば図2で示すレベルIVまたはレベルVまで意識レベルを深めることが必要だ。これはなかなか難しいことで、昔のシャーマンなどは可能であったのかもしれない。

我々は図3に示す最下層のレベル、神と呼んだり、私のような無心論者でもサムシンググレートとして、最終的に何か偉大なものの存在を持ち出さなければならない状態がある。このことは逆に我々は全てこのレベルで繋がっていると理解している。

この世界の構造は概念的なものではない。いわば物理的に存在しているものと考え、われわれの行動原理を支配している構造と理解する。

私が考えるテレパシー通信もこうした構造の上に成り立っており、他の人とのテレパシー通信はそれぞれの共通意識を介して行われると考えている。そのため旨く共通意識に到達できるかがテレパシーが使えるかどうかを決めているのだろう。

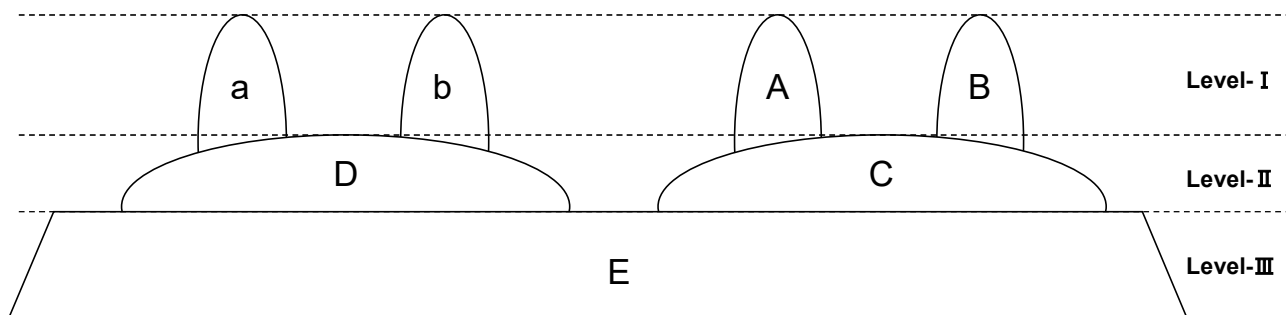
私はこれをもっと一般的に可能にする手段を見つけるための開発したいと考える。

以上は下図の世界観を空間的に説明したが、この世界は時間的にも繋がっていると考えている。すなわちよく言われるリモートビューイングで未来、過去の様子も見られると言うのも、このような世界構造が時間軸も含めて存在すると考える。勿論物理的な意味である。

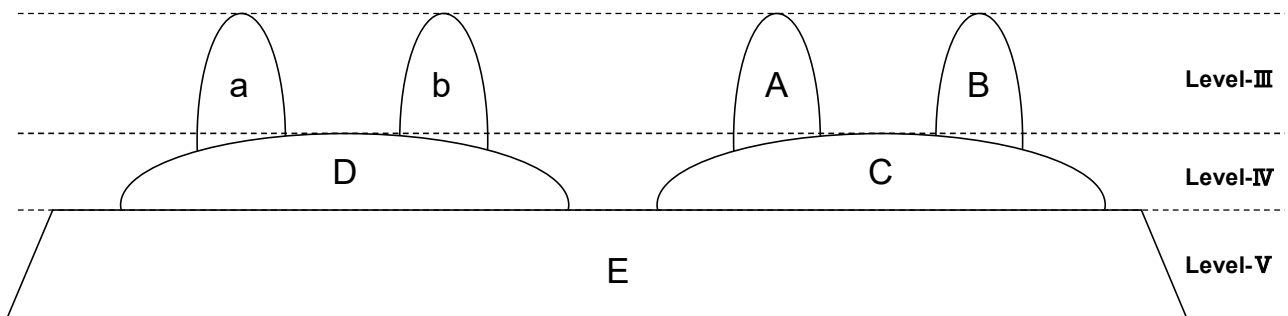
以上のような物理的な意味を持った世界認識を私は持っている。これを元に、社会的、科学的な課題を考えたいと思っている。超能力も含めこの考え方を、深めたいと思う。

こうした考え方は私が学生の頃から持っているイメージであるが、こうした考えが、単に概念、考え方というより、自然の物理的な構造と考えている。

世界の構造例 1



世界の構造例 2



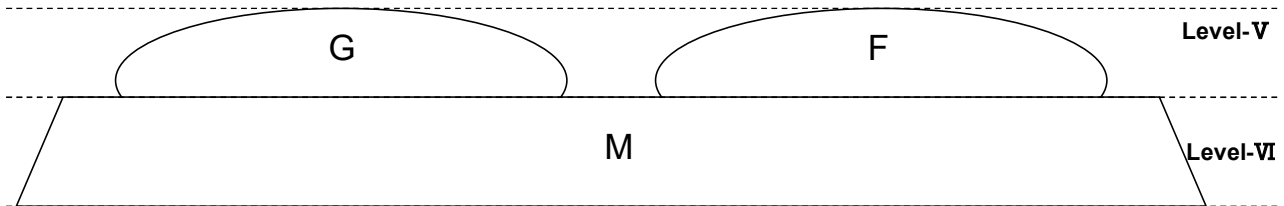
Level-III 個人 A:人 B:動物 a:無機物 b:有機物

Level-IV 国 C:生物 D:非生物

Level-V E:物質界

注 上記は何れの分類も1例。Level は例えばa、bのそれぞれの上に石ころ砂が来ても良い。a、bは有形物、無形物であっても良い。Cはいわゆる生命体、Dは非生命体であっても良い。水、風のような現象も、aまたはbのうえに入るかも知れない。必要に応じて決めればよく、要は上記のような分類とレベルわけで考えると世界の構造がわかりやすい。

世界の構造例 3



Level-V F: 物質界 G: 非物質界

Level-VI M: Something Grate、神、無意識 等

注 上記は何れの分類も1例。G: 非物質界(靈魂などのような目に見えない意識) M: ベースとなるような世界。宗教者は神とも言う。心理学者は集合意識、無意識とも言う。要は科学的に決められない何かがあると思われる。

2019年5月24日

最後に更新してから丁度1年がたっしまい、その間何をしていたのかなと、ふと思う。まあ仕事に忙しかったとしか言えないのだけど！ただ世の中はこの1年の間に大分変化した様に思う。

今日は、最近調布の事務所に訪ねてきたある宗教関係者とたまに話をさせてもらっている。彼らの目的は入会を勧めていることと思うが、わたしは初めから入会はしないという前提で、キリスト教の聖書について話をお聞きしている。こうした中で、もともと私はキリスト教の神エホバに関して若い(高校生)ころと考え方が変わった。特に宗教関係者のいう神エホバの考え方に感化されたわけではないが、最近この神について、再度考えてみる機会が増えたことにより、若いころ考えていたものと神のとらえ方が変わった。高校生の頃は自分が不完全なものであり、完全者になりたいと考えていた。

そしてこの完全者がキリスト教で言う神なのかもしれないと考えていた。

しかしながら聖書の記述には、勿論聖書の原典を見たわけではないし、多分日本語訳の聖書にも神は完全者という記述はなかったように思う。確かに神は全知全能のものと言う記述はあったように思うが、完全なるものという記述ははないのではないだろうか！神が完全者でないとすると聖書のいろいろなことに納得がいく。まず神が自然を作り、生物を作り、最後に人間を作ったとあるが、何で神はそんなことをしたのだらうと思っていて。これは単に神が、神一人では寂しかったに過ぎないのではないかと思える。また人間を神に似せて作ったのも、単に神の話し相手を作ったのだらうと思われ、完全者でない神は、人間を含めた自然が単にほしかっただけなのかもしれない。こうした様に神は自分の手で、遊び相手を作ったのではないかと思う。なんと人間らしいことか！つまり今の人間は神に似せて作られているため、今の人間の性質そのものもともと神にあったのだらう。例えば神が人間に与えた自由意志というものも、与えたのではなくもともと神に似せて作ったのだからすでに備わっていたのだらう。人間が神との約束を破ってエデンの園を追放されたのも納得がいく。人間は神そのものなのだから、神の持っている性格がそのまま現れ出たに過ぎない。また聖書には神と人間の契約が述べられていると言わ

れている。つまり神のいう事を聞く代わりに、違反すれば天罰を与えると。つまり神と同じになることを神は恐れたのではないだろうか！聖書では神の意に反して人間は神に近づこうとして神が思ってもいなかったことをし始めた。神はこれらを人間が墮落したと言って天罰を加えた。つまり約束を破ったため、人間は同じ言語を話せないようにし、ノア一族と一部の生物を残してすべてを滅ぼした。ある意味神は勝手なことをなされたのではないか？これは神が完全者でないとすると納得のいくことであり、人間を作るとき神自身が完全者とはなんであるかを理解していなかった。最初から人間を完全者にしておけば、後々人間に悩まされることはなかっただろう。神がよく考えて人間を作れば、今更汝隣人を愛せよなどという文言など出てこなかっただろう。簡単に言えば神は何も考えずに人間を神と同じものとして作ってしまったのだ。その後の天罰など神の身勝手が生んだ代物ではないだろうか！まあ神はたいそう人間臭いものなのであろう。神の意に沿わないものは天罰として危害を加えるし、彼らの眷属であっても墮天使、悪魔扱いをして排除するような性格なのである。すなわち人間社会に戦争、紛争がなくなるのは、すべて神の責任であることを自覚していない。聖書も神の責任を追及してもいいのではないだろうか？神を侮辱するなど多方面から言われそうなので、とりあえずこの辺でやめておくと、聖書、また聖書の神々をこうした考えのもとに見直してもいいのではないだろうか？ただ聖書の中で神あるいは彼の眷属の方が言っていることどもは人生訓、一思想としては考えるべき点が多々あり、人生の教科書として見ていくのはいいことだと思う。ただやはり一神教的な考え方で人間が自然を管理する、支配するという考え方が強く、私のような日本古来からの多神教的な考え方にはそぐわない。人間は自然と共生している日本古来からの考え方にそぐわない。一神教的な考え方では今後も自然破壊が続くだろうし、多分地球環境の中では忌むべきことではないだろうか？

2018年5月23日

どこかで一度書いていたかも知れないが、地球内部のマントル対流が変化してしまったのではないかと考えている。これまでマントル対流は安定な一状態を保ってきていたと思われる。このためアメリカ西海岸近海でマントルの湧きだしが起こり、これを海嶺と言っているようだが、太平洋海底の地殻が日本海溝に向けて拡大、移動していると言われている。この近くの沈み込む場所が日本近海の手海溝、トラフであり日本本土の直下に地殻が日本直下に潜り込んでいる。この力のため日本列島では大小の地震が頻発し、またこの圧力により発生した熱による火山噴火が多発していると言われている。これらは過去数百万年以上安定したマントル対流が維持されてきたため日本列島の自然現象がつけられて今日に至ると思われる。世界各地を見てもこのマントル対流は安定に推移しており、よく言われる大陸移動が起こったと言われている。大陸はこうした地球内部の安定したマントル対流により形成されたと言われる。しかしながら最近の地球上に起こっている現象を見ると、どうもマントル対流の安定状態が変化したのではないかと考えられる。こうした安定状態の変化は長い時間をかけて起こるのではなく、たぶん突然起こるのだろう。よくガラス容器でお湯を沸かしているときに見られる対流が、しばらく安定した状態で起こっているが何かの拍子で例えば5か所の対流が6か所の対流に突然変化する。変化が起こった後はまた今度は6個の安定した対流が維持される。こうした安定点も変化は突然起こると思われる。この安定点の変化の原因は今のところよくわからないが、いずれにしても地球内部のマントル対流がすでに変化したのではないかとと思われる。この変化により生じた地球の歪を解消するために、過去大陸の移動が起こったりしたのだろう。そして今新たに安定状態が変化した地球ではこれを裏付ける様な傍証となる現象が多発し始めた。例えば磁極が特に最近速いスピードで移動していると言われている。これはまさにマントル対流の安定点の変化による是正段階にある現象だろう。また世界のあちらこちらで近くが隆起したり陥没したりもしている。今後ますます世界中で近く変動が起きるだろうと思われる。これに伴う地震、火山噴火等が活発化していくと思われる。特にこれまで大きな地震が起きなかった場所とか、火山もこれまで噴火が見られなかった火山の噴火も起こると思われる。このところ海流の温度が上昇していることも、地球寒冷化に向かっている中で起こっている。これは海底の温度が上がったためではないかと思われる。当然海流によって変化する気候の変動も激しさを増すと思う。いずれのしてもこうした地球の状況を見ていると、しばらく地球内部の歪が解消されない限り続くと思われる。大陸の変動もあるかもしれない。しばらく要注意だ。今起きている異常事態というものもこうしたマントル対流の安定点の変化したことによると考えると合点がいくのではないだろうか。こうした観点から今後の

地球の変化を考えていく必要があるのではないだろうか！とりあえず地球の変動の原因について考えた。

2018年5月22日

このところ徒然の記も更新していない。なかなか仕事の合間を見て、というのは言い訳かもしれない。ただ最近の日本の政治情勢、自然現象等を見ていると、非常に変化してきていると思える。政治情勢は逆にこんなことを国会で議論していいのだろうかと思うことだらけで、日本は何をしているのだろうかと思ってしまいます。セクハラ追及疑惑やら、公文書改竄問題やら、追及しなければならぬとは思いますが、本来国会で議論すべきことはそんな事ではないのではないかと思います。世界情勢しかり、エネルギー対応しかり、自然災害対応しかり、等々、日本は今後どう対応すべきなのか、もっと国会で議論すべきことがいろいろあると思う。いずれも将来の大計を考えねばならぬ状況が逼迫しているにも係わらず、何も考えていないように思う。

ここを借りていくつかのテーマに分けて少しづつ、私の考えを示して今何をすべきなのか書いていきたいと考える。今日はここまで。次回は日本を含めた世界の自然現象が非常に活発になってきていることについて私見を述べたい。

2017年5月9日

最近話題になっている自衛隊の海外派遣の法制化が阿部氏の強引な採決で決まった。このことにより自衛隊は要請に基づき駆けつけ警護やら日本人の救出活動やらで、海外に派遣できることとなった。こうした中で日頃より、我々の自衛とは何なんだろうと思っている。よくその辺のおばちゃんの言うように二度と戦争は起こしたくない、このため戦争を起こすきっかけとなる自衛隊に反対する、というような思考をよく耳にする。しかしながら単純に戦争しないということでもいいのだろうかとも思う。もちろん戦争は私も反対である。

昨今の海外の状況を見ていると、いわゆるならず者国家と言ってもいいような国が、核弾頭をちらつかせて核開発を強引に認めると世界に迫っている。一方で、いつの間にか南シナ海は自分らのものだから勝手に軍事基地作ってしまうようなことも行われている。

もしこうしたならず者国家が日本に攻め込んできたなら、日本はどうするのだろうか？日本が占領されて他国の支配下に置かれてしまってもしょうがないかもしれない。しかしもし自分の目の前で近い人が殺されてしまうような目にあっても黙ってみられるのだろうか？私はそれはできないだろうと思う。残念ながら歯向かっても勝てないとわかっていても自分の力が及ぶ限り、何でもするだろう。たとえ相手を殺すようなことがあったとしても！

何も考えないおばちゃんたちはそうした事態がおこる前に話し合いで解決すべきだとおっしゃるに違いない。日本は外交衝衝が下手なので、もっと外交交渉力を身に着けるべきだと、おばちゃんがたはのんきなことを言うだろう。しかしながら今の北朝鮮と彼らに核開発をやめさせようとしている連中、アメリカ等はうまく交渉しているとも思っているのだろうか？交渉するには、相手と互角な交渉力が必要である。北挑戦ばかりが核兵器で脅しをかけていると思っているのだろうか？これは間違いである。アメリカとて即座に航空母艦を日本海に展開して、核実験をすれば北挑戦に攻撃を加えるぞと脅しをかけているのだ。北朝鮮から見ると韓国、日本との合同演習もしかり、つまり挑発しているのは北朝鮮ばかりではない、アメリカも十分北緒戦を挑発しており、どちらが先手を打つか見極めているとしか思えない。先に手を出したほうが不利な立場に立たされる。アメリカはこうした強大な力のもとに常に外交を行っている。何もない、日本が単独で北朝鮮と外交交渉をしても途端に敗北する。経済封鎖をもっと他国と協力して行えばいいのではといったところで足並みがそろわない。たとえうまくいっても空かさず北朝鮮は韓国、中国、ロシア、日本等に武力で押しかけてくるだろう。何も犯行手段を持たない日本が最も攻めやすいのだと思う。世界が行っている、あるいは行ってきた外交交渉とはおおよそこういうものだ。いずれも物理的な力を背景に脅しをかける外交をやっているのだと思う。世のおばちゃんの方いうようにただ話し合えば分かり合える、などと考えるのは歴史を知らない連中の思い上がりではないかと思う。私も2度と戦争はすべきでないと思っている。

では何かいい解決策があるのかというと、残念ながら何も有効策は持っていない。ただ次の2点を

進めるよう考えている。一点はやはり自衛隊あるいはこれに代わる軍隊を海外に派遣すべきではないこと。もちろん攻撃が最大の防御だということも一理あるが。もう一点は日本の技術力を持って防衛のための武器を開発することだ。これもかのおばちゃんたちは防衛兵器がすぐに攻撃兵器に転用することができるからこれも反対だというだろう。その通りかもしれないが、それでも優れた防衛兵器を開発すべきかと思う。例えば今アメリカが考えているミサイル迎撃システム、飛んできたミサイルをと途中で撃ち落とす、等が必要と思われるが、今のシステムでは多数弾頭を相手にすることはできない。日本のどこかに核弾頭ミサイルが着弾するだろう。こういう防御システムをもっと力を入れて開発すべきかと思う。よくアニメであるような防御スクリーンのようなものができればいいのではないか？強力な電磁波を照射して核弾頭の制御機能を破壊するのでもいいのかもしれない。この場合制御機能を失った核弾頭をどう無力化するかも考慮する必要があると思うが、レーザー砲に比べると電磁波のほうが標的に当たりやすい。

いずれにしてもおそらく日本は世界の中でも突出した科学技術力を持っていると思われるし、こうした防衛技術を開発すべきと考える。

いずれにしてもいまのならず者国家が多い中で、丸腰で上手く収まるような交渉などありえないと考える。我々と同じ考えで相手が行動すると思うことこそ、まったく理解できない考えだ。何しろ文化と歴史が全く異なると思うことが何よりも重要なことであろう。

今の安倍政権がもくろむようにただ自衛隊を強化して必要ならば海外に展開するため、憲法改正を強引に推し進めようとしていることこそ、戦争勃発の原因になる気がしてならない。なんとも今の雰囲気は第二次世界大戦が始まる前と似ている気がする。

戦争が始まる時にはそれぞれの国がそれぞれの理由を掲げている。どれも正当な主張かもしれない。多分戦争が終わってみたいことにはどの選択が正しかったのか説明することはできないだろう。こうした意味でなかなか戦争を起こさないいい対策を持っていないのが実情だ。

日本が全技術力を持って防衛兵器を開発することは、日本と同様な他の国にとってもいい技術の転用ができるかもしれない。ただ戦争反対を唱えていても何の意味もない。自分だけが死んで済むことにならないのだから。やはり自分に近い人は守りたい。これは本来の生物が持つ本能だと思う。

なかなか思うことが述べられないが、現状を考えるヒントにしてほしい。ただ戦争反対、外交交渉をうまくやれでは済まない状況だともう。おばちゃん！

2016年4月18日

熊本地震について少し感ずるところを記しておこう。この地震は九州の中央部を横切る断層帯で起きた地震であり、どれが本震、どれが前震で、どれが余震などと言っても始まらないものであると思う。最初に起こった地震で断層帯の歪が変化し、断層帯に沿って力が変化したために起こるのであって、すべてが本心であると思ったほうがいい。気象等では過去に例がない地震だといっているが、このようなことは、素人でも断層帯を力の変化が伝わり、断層が通る地域に震源が拡大してもおかしくないと感ずる。視聴者を心配させないための気象庁の方便だとも思うが、かえって問題だ。余震などというから1回目の地震の後、まだ健在な家に必需品を取りに行ったかたがたが2度目の強い地震で家の下敷きになってしまった例が多いのではないかと思う。余震ではなく本震が拡大するから気をつけろといったほうがよっぽど注意が図られたのではないかと思う。それでも家に物を取りに戻る人はいただろうけど！

この地震でやはり重要なのは歪が安定状態になるまで、破戒しやすい地層の断層帯にさらに広がるを見たほうがいいと思う。特にこの断層帯野南には川内原発があり、今のところ震度が小さいから運転中だそうで停止させるつもりはないらしい。しかしながら先に述べたように余震などというのではなく、震源が川内原発直下、あるいは近くで起こってもおかしくない状況にあると思う。このことからしても原発をすぐに停止させるべきだと考える。ここの状況で稼働させるなど狂気の沙汰である。また面子にこだわっているのだろうが！ただ原発は停止させたからといって安全ではない。燃料棒が原発に残されたままなので原発が破壊されれば放射性物質がやはり飛び散る。九州の断層帯は日本の大断層帯である中央構造線の南端に位置している。このため地震活動はこの断層帯にそって拡大してもおかしくなく、大分県に震源が移っていったのもこの断層帯に沿っている。今後歪の力が安定状態になるまで、震源が

拡大するものと思われ、四国、果ては関西、長野県まで拡大するかもしれない。力の伝達はほぼ瞬時に伝わるため、中央構造線のどこで地震が起こってもおかしくない。四国で気になるのはやはり中央構造線の直上にある伊方原発だ。この原発はまだ停止中であるものの燃料棒は原発内か近くのプールに保管されているはずだ。しかも絶えず冷却しながら。このため停止中の原発であっても冷却が泊まる程度の地震で臨界状態になり、破壊されれば放射能をばら撒く。原発というものは稼働しようが、停止しようが、問題が起これば結果はほぼ同じになる。川内原発にしても伊方原発にしても放射能漏れが起きれば、せつかく福島原発から離れていて、放射性物質が比較的に少なかった関西地区もほぼ壊滅である。

今回の地震を関係者は甘く見ているのではないか！というより何らかの利権がらみで、こうして報道をさせない状況にあるのではないかと思う。九州はこの断層帯だけでなく他の断層も要注意である。断層に掛かっている力が変化したので、九州全土の弱い断層はいつ破壊してもおかしくない状態になっている。うまく力が緩和されればよいが要注意である。博多にも限界原発があり、これまた問題である。

いずれにしても原発は即刻廃炉にすべきであり、燃料棒を水冷しなくても問題ない状態に粉碎して臨界の起こらない状態にすべきと考える。原発をベース電源にはいけない。

ともかく今後注意すべきはどこまで震源域が拡大するかであり、人為的にとめられない以上、何とか地殻の歪が解消するように祈るばかりである。

2016年3月8日

私は自宅から最寄の橋本駅まで50ccで通勤している。毎年この時期になると、いつもわくわくする。いつも同じ場所で春の草木が見られるからだ、しかも春先から初夏まで順に花が咲いていく。

このところ、すでに満開の馬酔木の花が見られた。あまり目立たない花だが、花の少ないこの時期にひっそりと、だがたくさんの細かい花をつける。今日は数日前から咲き始めた、しだれ梅も見ることが出来た。もう満開になっている。梅は咲き始めが良い。真室川音頭じゃないけれど、つぼみも混じって咲いている様は、なんともかわいい。桃の花ももうすぐだ。桜もつぼみが膨らみ始めた。そうこうしていると、すぐ青葉の季節になる。5月が青葉の季節と言うのはあまりにも固定観念となってしまっているが、実際には4月に入ると私の通り道では、市立北体育館地殻の林がうっすらと黄緑色に変わってくる。今の季節はもう一つ香りが気になる。沈丁花の花の香りが夕方歩いているときなど、どこからともなく漂ってくる。この香りがするといつもあたりを見回して探してしまう。近くで香りがかぐとかなり強いにおいなのでむせてしまうが、春の宵、風の穏やかな日にどこからともなく漂ってくると。冷たい風の中で春が来たなと思ってしまう。秋は金木犀がこの役目だ。この次期はいつものところ、にいつもの花が咲いているのを確認して、ほっとする、と同時にやや切なくなる。今年もしだれ梅がこの家で咲き始めたかと思うと、今年も見られて良かったと思ってしまう。そして来年も見られると良いな、と。やはり歳を取ったせいなのかと、やや切なくなってしまう。いつまでこれらの光景を見ることができのだろうか。このため毎年いつもの時期に、いつもの場所で、いつもの花が咲いていることを確認できることが、いとおいしい。

やや感傷的になってしまったが、本日は直径30mほどの小惑が地球から5000000Km付近を通過すると言われている。国際宇宙ステーションが400Km、月360000Kmのため、月のすぐ先を通過する。少しでも軌道に外乱が加われば地球と衝突になりかねない。心していたほうがよさそうだ。どうにもならないからしょうがないかと言ってあきらめよう。また相変わらず地球では異常気象が続いており。現在は世界7カ国で大旱魃となっているようだ。この旱魃は広がりを見せており、また食糧問題がクローズアップされそう。

先日提起したマントル対流の変化の是正もさらに深刻化してきているように思える。あちこちで地割れ騒ぎ、また地殻変動に関わると思われる事象も顕在化してきているように思える。さらに月。火星ではこのところ探査機の写した写真の中にこれまで隠蔽されていた生物の存在や、古代文明の遺物？等が発見されており、NASAも隠蔽しきれなくなっているようだ。今後どんな展開を見せるやら。注目したい。

最近アニメもさらに凝っているし、アニメのテーマ曲の歌詞にも感動をしている。最近の歌謡曲。ましてシンガーソングライターとかいうど素人の曲と違ってアニメはこのテーマ曲がよくないと見向きもされなくなってしまう。中でも歌詞はなおさらだ。アニメの曲のほうが真剣勝負のような気がして、

すばらしいと思う。アニメの中身も大変良い。最も私の気に入らないものも多々あるのだが、最近のテレビの三文ドラマなどと較べると格段に良い。最近のドラマや録でもないバラエティー番組を見るのだったらアニメのほうがまだ。アニメも丁寧に作られたものほど中身もよさそうである。またに機会があれば紹介したい。

本日は取りとめもなく最近の私の近況を書いてしまった。ご容赦を！

2016年1月5日

前述したように地球内部のマントル対流の安定点が、すでに大きく変化してしまっただのではないかと考えております。この結果として最近特に磁極の移動が大きいと言われており、当然のことながら、陸上部の移動が伴い、大陸移動のため大きなストレスが大陸に掛かり各地で地割れ、シンクホールなどの現象が起きているのではないかと考えております。当然去年は海洋底の隆起とか沈降も多々報じられたのではないかと思います。気候の変化もエルニーニョの影響と報じられておりますが、マントル対流の位置が変わったことにより地熱の変化もあると見られ、海洋の温度変化等も起きていると思われ。決してCO2による温暖化等の影響ではないと考えます。エルニーニョの拡大さえこの地熱変動によるのではないのでしょうか？今年2016年もこの影響は続くと思われ、各地で地殻異常、気象異常が前年より顕著に見えてくるのではないかと考えています。まさに日本沈没までは至らないものの同等レベルの現象が日本にもたらされると考えています。

話は変わりますが、前回、考古学者の大島直行先生に素人の私が、メールにて先生のご意見を求めてしまいました。まことに恐縮していた次第で、メールの返信も期待しておりませんでした。ところが先日、先生から小包が届き、中に先生の御本「月と蛇と縄文文化」が先生のサイン入りで、しかも私宛の名前入りで小包に入っておりました。また先生の直筆の手紙と、幾つかの雑誌のコピーが同封されておりました。大変驚き、恐縮した次第です。素人の戯言と聞き流されても仕方ないと思っていた矢先でした。申し訳ないのですが先生の手紙は字があまりうまいとは言えず、一度パソコンに書き直してから再度読ませていただきました。見れば、日本の考古学会の問題点を遺物分類主義に偏っていて唯物的過ぎることを嘆いていらっしゃる、現代人の思考方法と違う縄文人の考え方を踏まえて、もっと精神文化に力点をおかないと縄文文化は理解できないと仰っており、また私が素人の分際で指摘した海外との文化の交流を検討し始めたところだと言う内容を書かれており、決して素人に対しても丁寧に対応していただき、幾つかの雑誌のコピーを同封していただき、大変恐縮した次第です。私のような考古学素人に対しても丁寧な返事を頂、また先生の縄文文化の考え方を理解し、先生の人柄がわかりました。感謝です。頂いてから早速先生の御本とコピーを読み始めました。お知り合いになれて（と言っても顔なじみというわけではありませんが）、良かったと感謝しております。あまりしつこくにはならない程度にご意見を伺いたいと考えております。

2015年12月21日

先日の金曜日夜に「アイヌ文化に縄文文化との接点はあるのか？」と言うテーマの講演会を聞きに行ってきた。大島直行という札幌医大客員教授で北海道考古学会会長をやっている方が講師をしていた。

この講演会はアイヌ文化を紹介しているアイヌ民族主催の講演会であったが、私は特に縄文時代を含めた日本民族の古代史に興味を持っていたため参加させて頂いた。講演の内容はアイヌ文化の精神史に縄文文化の精神史が影響を与えているかをテーマに扱ったものだが、大島先生の考え方は非常に面白く、また有意義であり大変参考になった。縄文文化を共生シンボリズムと捉えこれに続く弥生文化をアニミズム（シャーマニズム）ととらえて、こうした文化がどういう風に確立されてきたかを御自分の考え方とともに語りアイヌ文化の「送り」の考え方にどういう影響を与えたかを話しておられた。大変ユニークな考え方をしておられ興味を持ちました。

私は日本民族の成り立ちを素人ではありますが、以下のように考えておりましたが、精神文化についてはあまり考えておりませんでした。縄文時代をはじめ精神文化の変遷は日本民族を理解する上で重要であることを考えさせられました。

私はもともと日本民族が、教科書で習ったような、決して単一民族であるとは思っておりません。最近のミトコンドリア遺伝子の研究から、日本人は日本列島が陸続きであった頃から、海で隔てられてか

らも民族移動の只中にさらされていたとっております。北方シベリア地方からは今のアイヌ民族の祖先が樺太経由で日本列島に渡ってきており、1万年に及ぶ縄文時代を通じて、今の関西から、九州に拡散していったと考えております。当時は多分少人数で部族を作って浸透して行ったのではないかと思います。この頃はまだ日本列島には他の民族も少なく大きな争いもなく進んでいったと考えられます。また朝鮮半島経由で日本の関西地方、北陸地方に入ってきた民族、中国からは中国南部の民族が海を渡って流入して九州から中国地方に渡ってきたのではないかと思います。また南方ポリネシア地方の民族も台湾、琉球経由で九州地方に流入してきていると思われまふ。これらの南方系の民族も逆に日本の東北地方、多分北海道まで移住して行ったのでしょふ。この辺はDNAレベルで検証していく必要があるかと思ひます。いずれにしても日本の1万年以上昔、旧石器時代以前から日本列島には多くの民族が流入し、縄文時代、弥生時代以降にわたって民族の混交が行なわれていたと思ひます。こうしたことから日本民族は単一民族ではなく他民族が入り混じった民族と思ひます。こうした観点で見ると、今の他外国のほうが混血度は低いのではないかと考えられます。当時まだ国家と言うものはなかったと思ひますが日本は多民族国家ではなかったのではないでしょふか？

中国の魏志倭人伝に記されているという卑弥呼が和国統一を行なう前（といつても関西地方までと思ひますが）丁度縄文期から弥生期にかけて和国騒乱の時代と言うのは、こうした多部族がそれぞれじぶんの領地と言うより居場所争って小国と言うより部族間騒乱が多発していた時代かと思ひます。

そして卑弥呼が九州から関西地方にかけて緩やかな統一をして耶馬大国が出来たのが、この部族抗争を収めたことではないかと思ひます。耶馬大国とはこうした緩やかな今で言う連合国であったのかもしれません。さすがに卑弥呼はどこにいたかは未だに議論的となつてはおりますが！

そしていよいよ多分大陸の騎馬民族かと思ひますが、天孫降臨の時代となり九州を中心に今の天皇家の祖先が日本列島に磐というやうなものを作って九州を支配下に置いたのでしょふ。さてそこから神武東征の時代になり、徐々に瀬戸内を支配下におさめながら今の和歌山県奈良地方に大和朝廷を作り、関西九州を統一したと思ひます。このときに九州関西地方にいたアイヌ民族は徐々に北方、東北地方に追いやられ、熊襲民族は南方に追いやられていったのではないかとと思ひます。熊襲は琉球に吸収され、アイヌ民族はさらに今の北海道に追いやられたと思ひます。実は東北には縄文早期、8000年位前にすでに三内丸山遺跡で知られる東北文化圏とでもいふべき民族が国を作っていたと思われ、アイヌ民族はこの地にも定住できなかつたと思ひます。つまり縄文初期には三内丸山地方はすでに定住民族がいてアイヌやうな採取狩猟民族は定住することが出来なかつたのでしょふ。

こうして弥生時代、古墳時代、大和奈良時代になると日本列島は関西文化圏、東北文化圏、アイヌ文化圏というやうな区分けが出来たと思ひます。われわれの教科書では天皇直系の歴史しか残つていませんので東北文化圏も大和朝廷から見た程度しか歴史は残されていません。アイヌも恐らく北海道文化圏を作っていたと思ひますが、アイヌは国家機構を作らなかつたため、さらに歴史上では何も語られていないのでしょふ。

先に示しましたやうに縄文時代早期でもすでに三内丸山では大きな定住集落を形成していたと思ひます。最近の発掘では例えば黒曜石のナイフを製造する専門職人がいたことや、稲作ではありませんがどんぐりやうな植物を栽培して食料を備蓄していた等の遺構が残されており、職業の分業等がすでに行なわれていたと見られています。こうした組織的な活動をするためには、当然定住して職業経験、伝授が行なわれていたと考えられ、国家組織等が発達していたと見るべきかと思ひます。また黒曜石は海を渡ってロシアの海岸地区からも発掘されていると見られ、三内丸山文化は縄文初期から日本国外とも交流が盛んにあつたと見るべきです。決して縄文時代は交通手段がなく日本国内だけで人々は活動していたのではないと思われ、もっと活発に海外との交流があつたと見られます。教科書の示すやうに狩猟採取経済で細々と国内をうろついていたわけではないのではないかとと思ひます。今から8000年前と言うと文明発祥の地エジプトより古い、中国4000年の歴史より古いといつても良いかもしれません。

さらに最近では中米のエルサドバトルでも1万3000年前の縄文式土器が発見されているなどの話も伝わってきたのを考えると、古代はもっと活発に海外との交流が行なわれていたのではないかとと思われ、決して日本列島の中だけで閉じていた文化ではないのではないかとと思ひます。

こうしたことから教科書は時間軸に沿って記述されているけれども、近代はともかくもっと古代から

水平軸に沿って記述すべきかと思います。試験勉強のような年代暗記型の教育ではなく古代から世界との交流があったことを伝えるべきであり、物、人の移動に伴って必ず日本の精神文化も移動していると思われ、さらにこうした痕跡を世界に確証を探してみるのも面白いと思われ。先に紹介した大島先生など日本文化の精神史を研究されている方々には、特に日本の精神文化の広がりや世界に求めてもらえないかと思います。1万3000年近くの縄文土器が発掘されているということは、定住生活をして何らかの組織だった集団がいたことになり、すでに文明と呼べる状態であったとすると、もしかしたら世界の四大文明よりも早い時期に日本の文明があったことになり世界の歴史認識が大きく変わると思います。私自身こういった観点から、証拠を探しを含め、縄文文化またそれ以前の旧石器文化の勉強したいと考えております。

実は昨日、先の大島先生に日本の精神文化が海外に広まっているのではないかと、先生のお考えを伺いたいとのメールを送ってしまいました。多分この素人が何をかいわんやで、返事もないかもしれないと思いつつですが！

2015年12月7日

マントル対流が変化してしまったと言うことを先日来書いているが、これの傍証と思われる事件が続いている。アメリカ、カリフォルニア州のサンタクラリタというところを通る道路が数時間で見てる間に隆起、あるいは陥没したと言う事件が起きている。これもマントル対流が変化したためこの対流に乗っている陸地、すなわちアメリカ大陸に歪が蓄積し、地面が耐え切れなくなり歪緩和のため変形したと思われる。こうした類の地殻の隆起、陥没はここ数年、世界のあちこちに起きている。恐らく大陸移動が始まったのではないだろうか？これからもマントル対流の変化した地域の地殻変動が多発すると思われる。日本列島も東側に移動していると言われており、これが巨大地震の引き金となりそう。多分火山活動もこの一環で、マントル対流が変化し始めてから、地磁気の磁極が動き始めてから100年以上経過していると思われ、各大陸にストレスが蓄積されてきていると思われ、世界各地でこの地殻変動に伴う事件がさらに多発すると思われる。世界の気象異常も多発しているが、これらもこのマントル対流の変化が原因で海水温の異常高温がすすんでいるためと思われ、決してCO₂による地球温暖化のためではない。COP21等でいつまでもCO₂削減策など議論している場合ではないと思う。もっと現状を把握して無駄な削減策などやめたほうが良く、逆に寒冷化対策に注力すべきで、寒冷化に伴う気象異常の影響のほうがはるかに深刻な食料不足等の問題に陥りやすいと思われる。これまで述べたように磁極の移動がなぜ起こったのかを調査することが先決と思う。すでに100年前から起きていると言われており、私の言うようにマントル対流が変化したとなると今後の地球環境にとって大きな問題と考える。

2015年10月7日

昨日、マントル対流の変化についての記事を書きましたが、同じく昨日、日本の梶田氏がノーベル物理学賞に選ばれたとニュースで伝えておりました。彼の受賞テーマはニュートリノが質量を持つということ、初めて実証したこととされております。これは昨日述べたマントル対流の変化の起点として重要かもしれません。ニュートリノは地球に60億個/秒・cm²降り注いでいると聞いております。これらのニュートリノが質量を持つということは地球の重力に束縛されるものがあるということになります。60億個すべてが地球に捕らわれるわけではないとしても、数%それ以下でも長時間の地球時間においては地球質量を変化させる質量となることを意味していると思われ。その大部分がマントルに吸収されるのではないだろうか！マントルの全体質量が変化すれば、何万年あるいは何百万年後にマントル対流の安定サイクルが変化することも考えられます。地球の地形の変化が何百万年に一度の割合で変化することが考えられるのではないかと思います。もう少し数量的な解析が出来ると思いますが、どういう検討をすればいいかを、少し考えてみようかと思います。いずれにしてもこのニュートリノにも質量があるということは地球環境にとっても重要だと思われ。

2015年10月6日

9月7日に述べたように、最近の世界の異常現象は、どうも地球内部のマントル対流の変化によるものではないかと言う記事を書いたが、この考えを裏付ける方法がないものかと思う。マントル対流の変化により海洋の地殻表面の温度が上がったのではないかと考えている。これを検証するには近く表面の温度が測定できればいいのかもしれない。ただ表面の温度では太陽光に暖められたことによる影響が出易いので、地下数メートルあたりの温度を測定することが望ましい。これは全世界で測定点を決めて経時変化を観察すればよいが、これはかなり大規模な観測網を作ることが必要であり、なかなか難しい。人工衛星を使って赤外線放射線により観測は出来ないだろうか？海水をとうしての温度測定となるため、一工夫が必要かもしれないが、絶対温度よりも相対温度差が必要のため、可能なのではないかと思える。恐らくマントルの湧出点では温度が高く、沈降点では温度が低いと思われ、マントル対流の変化が見られるのではないかと思える。

ただすでにマントル対流の安定点は変化してしまっており、その歪を解消する方向に地球の、特に地表の変化が多発しているかもしれない。ただ例えば日本付近に限るとアメリカ西海岸付近に地殻の湧出点があり、この地殻が沈み込む点が日本海溝とすると、現在の湧出点を探せば、マントル対流が変化したかがわかるのではないかと思う。この地殻の温度変化をトレースすることは、いずれにしても重要と考えるので、衛星、または地表実測定により経時変化をトレースすることは重要かと思える。

いずれにしても昨今の異常現象がCO₂による温暖化のせいなどと府抜けたことを行ってないで、地球内部の変化と捉える必要があり、これに対する今後の予測。対応を考えるべきと思う。今後気象異常ばかりでなく、地殻変動も大きくなり、地震、火山活動も活発化するであろうと思う。場合によっては過去に起きた大陸移動のような自体も起こりうる。地球表面温度が上がったことをもっと良く調べることが急務ではないだろうか？今後打ち上げられる地球観測衛星にこうした地表温度を測定できる観測器具を搭載できないだろうか？

2015年 9月7日

最近異常気象が続発している、と言われる。またこの原因が地球温暖化による海洋と大気の変化が激しく変化するようになったと言われ、CO₂削減にさらに励めとTV、公報では声高に唱えられている。果てはこのためにクリーンな原発を早く再稼働せよと政府はおっしゃる。異常気象なのは判るがその後の原因がおかしい。まずはCO₂による温暖化が進んでいることが疑問である。むしろ地球は寒冷化に向かっていると言われている。極地の氷が南極、北極との増加している。一時は北極の氷がとけたといっって、北極熊が氷から海に落ちるような映像を流して、温暖化が進んでいると宣伝をしていたが、むしろ極冠の面積は広がっていると言われている。太陽活動の低下により逆に寒冷化に地球は向かっていると言われており、CO₂排出による温暖化の影響は少ないと言われている。これまで地球は何度も寒冷化を迎えており。太陽活動との因果関係が大きいとされている。国をあげてCO₂削減を唱え、このために原発再稼働を急いでいる理由がわからない。多分原発利権のために政府は動いているのだろう。九電の川内原発が国の基準に合格したとして再稼働を始めたが、この基準そのものが再稼働できるような基準のためこの基準に合格したから安全性は確保されたといい加減なことをいって、再稼働にいたった。また事故を起こすと思われる。

先ほど寒冷化が進んでいるといったが、一つ理屈に合わない現象がある、それは海洋の温暖化である。これが異常気象の元凶と思われるが、何故寒冷化に向かっているのに海洋温度が高いのだろうか？海洋の温度が上がる原因として温暖化の影響と言われているが、これが影響するよりもさらに海洋の高温化が進んでいると言われている。海洋温度を上げている原因としてもう一つ考えられるのではないかと私は考えている。それは地球そのものが高温化している、すなわち地球内部の活動が増加しているのではないかと思える。この活動の増加によりマグマ等の熱源が海洋の温度を上げているのではないかと思える。この地球内部の活動が活発化していると思われる現象が幾つか起こっている。まずは磁極の移動が大きくなった。磁北極はすでに大きくずれてきた。磁極の逆転が起こるのではないかとされている。磁極は地球内部のマグマの動きと関連していると言われ、このことから地球内部の変化がおおきな

っていると思われる。また最近シツクホールがいたるところで発生している。フィリピン近くの海底が1～2日で上昇した。ドイツや南アメリカで海岸が隆起した。メキシコでは地割れが相当な距離に発生した。日本では西の島の噴火が収まらず新島が成長し続けており、きわめて珍しいと言われている。また世界各地で、火山噴火、地震が頻発している。こうしたことからやはり地球内部の活動がおおきく変化しているのではないかと思える。これは昔、大陸を移動させた力が働いているのではなからうか？

いつまでもCO2などと、腑抜けた議論をしていないで、もっと地球内部の状況をつぶさに調べるのが重要と思える。マグマの対流は一定の安定状態の中にあり、これがたとえばアメリカ西海岸で地盤が生成され、日本まで動いてきており、日本列島の近辺で地球内部に沈み込むと言う、プレートテクトニクスがモデル化されているようだが、この地殻の上昇点、沈降点が今までは定常状態にあった。だがこれがマグマの対流の定常状態とすると、現在この定常状態が変化しようとしているのではないかと思える。世界各地でこの定常状態が変化するタイミングは多分一瞬で、次の定常状態に移行するものと思われ、すでにこの状況が始まっていると思われる。この現れが海流の温暖化にも影響し、海水温が下がらないのではないかと思う。今後この影響がさらに顕在化して、我が日本列島も今の形のままでいられるのだろうか？いずれにしてもこのような地球内部の変化が起きていることをもう少し真剣に調査してもらええないかと思う。過去に何度か伝えられている、いるいわゆる文明崩壊に繋がる事態かもしれない。これからますます火山活動、地震の活発化、異常気象が激増していくと思われる。

2015年 9月2日

このところ仕事にかまけて、あまり考え事をしていない。やはり一日一度は、感動、あるいは感激とか感心することが重要だ。アニメなどもその度に感動することが多い。

この8月29日、30日、二日続けてよさこい踊りを見物に行ってきた。29日は原宿表参道よさこい、30日は調布よさこい、を見た。表参道よさこいは30日が表参道での演舞だったが調布と重なるため29日のNHK前の道路で行なわれたものを見た。表参道よさこいはメジャーな大会で、調布よさこいはローカル色の濃いものであった。それぞれ特徴があり面白かった。表参道よさこいは、その筋では有名どころのチームが参加しており、なんと言っても構成メンバーが若い。このためよさこいの演舞もかなり激しいもの、衣装も派手なものが多く、よさこいの特徴である、自由さが現れていて面白かった。小雨の中ではあったが、演舞者に敬意を表して私も傘をささずに撮影させてもらった。替わって翌日の調布よさこいは近隣のよさこいチームが出席しており、なんと言っても年取った連中が多かった。このため、あまり激しい動きはなく、また衣装も表参道と較べると穏やかな雰囲気であった。

よさこいは、もともと高知県の商店会の盆踊りとして始まったと言われる。こうした意味では、盆踊りの延長のような調布よさこいのほうが盆踊りの性格が強いのかもかもしれない。盆踊りと言うものが本来、お盆に帰ってきた先祖を送り出す行事として始まったと言われており、調布よさこいが盆踊りの延長上にあり老人、子供の参加が多いのも頷ける。鳴子を鳴らしながら道路を進んでいく盆踊りと言ってもよいかもしれない。一方で表参道のようなエネルギッシュなものも、よさこいの特徴があって面白い。これはアニメで知ったのだが、よさこいは振り付けも自由、演舞曲も自由、と言われており、鳴子を持たないでも踊っているものもある。ただ各よさこいにより鳴子は必須のともあるようだが、また曲も著作権のあるものは、断りを入れて使う必要があるようだが、基本的には何でもありと言ったところ。こうしたことが、そこら辺のストリートダンサーを巻き込んで、各地でもようされている原因と思われる。阿波踊りのような決まりきった踊り方などないため、自分らで曲にあった踊り方を工夫すれば良いと言うようなところが、昨今の目立ちたがり屋が増えたことと相まって人気があるのかもかもしれない。決して泡お踊りのような伝統色の高いものが悪いと言うわけではないが、若者も老人も敷居の低いところが良いのではないだろうか！ 昨年からよさこい見物を始めたが、今年はじめに見た湘南よさこい等、また今年も見られたかと思うと、なんとなく感激してしまい涙ぐんでしまった。

もし興味があれば、アニメのハナヤマタというDVDを見てみることを薦める。これはアメリカからの転校生が日本の中学で、小さい頃日本で見たよさこいに感激して、日本の中学でよさこい部を作るために奔走し、よさこいに参加する話だが、その中でよさこいのルール等の説明も出てくる。昨年このア

アニメを見た後、よさこい見物をしてみたいと思っていたところ、たまたま坂戸よさこい 2014 を見る機会があり、アニメの雰囲気を出しながら見たのがきっかけであった。この坂戸よさこいも割りとメジャーな大会なのかもしれない。駅前のメインストリートを全て封鎖して町中でお祭り騒ぎであった。ある意味町挙げての行事といったところで、京都の葵祭りのような町ぐるみの祭りの雰囲気がした。各地域の雰囲気、特徴がさらに出せれば、定着した文化になっていくのかもしれない。こうした若者を巻き込んだ文化の始まりに立ち会っているようでワクワクしてくる。

2015年 4月15日

久しぶりに書き込みをする。今日、仕事で外出した折り、根津にある弥生美術館に行ってきた。東大の裏にある小さい美術館で、企画展示で橘小夢展をやっていたからだ。隣接する竹久夢二美術館も訪ねた。と言っても同じ入場券で両方入館できるからだ。

これらを見たかったのは日本美人画の流れを汲んでおり、挿絵画として日本画の画風を受け継いでいると思われたためだ。元来私の主張である日本アニメの原点が美人画と思われ上村松園、鏑木清方等の本格的な美人画の流れを汲んでいるのが日本アニメのキャラクターの描き方ではないかと思ってきた。

ほとんどの感情表現が何れも顔の表情、目や口の表情で表されており、日本アニメのポイントはこれを受け継いでいるのではないかと思っている。本日鑑賞した、橘小夢、高島華宵、竹久夢二の挿絵、画風が丁度、本格的な美人画からアニメに移行する中間帯ではないかと思ひ、これを確認したいと考えていたことによる。やはり日本画、美人画の流れが日本アニメに受け継がれていったと考えて良さそうである。鏑木清方は本格的な美人画家ではあるが、一般に清方漫画と呼ばれるものがあり、これも日本アニメの元ではないかと思っている。日本アニメが外国のアニメと決定的に違っていると思われるのは、こうした顔の表情でその人物の内面を表そうとしている点にあり。顔の表情も目と口元、顔の運びで全てを表している点ではないかと思う。けして外国の絵画のようにゴテゴテと顔の形状、凹凸を描かないでも、目と口元等で表情を良く表していると思われる。日本アニメは美人画と違い目が大きくなっては来ているが、その目でさえ感情を書き込んで書き込む辺り、美人画の描き方を受け継いでいると思われる。目の大きさも清方漫画から挿絵として有名となった高島、竹久にもこの傾向は見られ今回特に鏑木。上松等の古来の美人画から日本アニメの移行傾向が見られる。竹久夢二、高島華宵、等には少女をとりあげたものも多く、やはり日本アニメの原点になっていると思われる。

日本アニメが海外でも一目置かれてる点はこうした西洋画の写実的な人の描き方と異なり、相当単純化された目元、口元の変化だけで、シンプルに表情、ひいてはキャラクタの内面まで表す技法が、海外に受け入れられたのだと思われる。シンプルな線で表せるために顔の動きなどさらに多くの情報を我見に表現で着ることが特徴なのではないだろうか？

話は変わるが世の中、自然も社会も騒がしくなっている。自然としてはまず宇宙だが、太陽の動きが慌ただしい。黒点数の変化が大きく変動しており0になったかと思うと2週間ほどで200近くまで増加したりしている。磁気嵐の影響も地球にたびたび影響を及ぼしていると思われる。また彗星、地球に接近する小惑星の数がこのところ極端に多い。幸い地球をかすめていくものがほとんどだが、地球衝突コースを進むものも現れる可能性も大きい。ただ質量は小さい方なので、小さな隕石として落下してくる状態で済んでいる。いつ大きいものがかつこんでくるか判らない。比較的小さいものが発見されるのは地球にかなり近づいてからと言われている。今年になって発見された小惑星がかなり増加している。天候不順に関しても、かなり極端に変動している。これを全て温暖化、CO2のせいにしてしまう風潮が強いが、そもそも地球が温暖化に向かっていることさえ疑問があると言われている。産業革命以降CO2の増加で気温が上昇しているデータさえもCOOPのねつ造ではないかと言われている。むしろ南極の氷床面積も近年の最大に達していると言われている。先日南極の気温が高いと話題になったが、測定された場所が、南極の南アメリカに近い突端部の気温で、マスコミの地球温暖化の方向に考えを強引に向かわせようとする意志が感じられてしょうがない。北極のシロクマの映像などもヤラセではないかと疑われている始末。地球は寒冷化に向かっているのかもしれない。温暖化と騒いでる内に対応が遅れ

ることが気にかかる。ただ海流の温度が上がっていると言われ、これも温暖化のためではとされているが、海水温の上昇はむしろ地球の内部の活動が活発になっているためと考えた方がいいかもしれない。近年あちこちで、桁の陥没（シンクホールではなく）や隆起が報告され、火山活動も活発化してきていると言われている。どうも地球が活動期に入ったのではないかとされている。地磁気の北極の移動も大きくなっており、時局の半天も起こりうることもかもしれない。これに伴うと思われる地磁気の減少も見られ遠からず時局の半天が起こるのではないかとされる。また回転軸の移動も噂されており、イヌイトたちが太陽の昇る位置、星の位置が変わってきたと報告している。こうした一連の変動が、地球の活動期の減少を示しており、近年の地表変化の原因となっているのではないと思われる。海流の温度上昇も地表の熱の上昇を反映しているのかもしれない。こうしたことから地球は変動期を迎えていると言われている。CO₂の上昇で温暖化進むと考えている間に全く原因の異なる事態が進んでいて対応を間違えるのではと思う。CO₂原因説などは一部の利権を持っている連中の誘導に過ぎないと思われる。日本では原発推進派の根拠となっており再稼働などと馬鹿なことを進めている。原発についてはまたどこかで意見を述べたい。これも大きな、深刻な問題と考える。いまが丁度エネルギー政策の転換を試みるチャンスなのだが、原発推進派の思惑で、馬鹿なことに原発をベースロード電源と位置づけてしまった。せつかくの電源供給の革新となるべき時期なのにマスコミも含め原発利権に絡む人たちの思惑に乗ってしまっている。誠に残念な事だ。一寸長くなったので一端ここで打ち切ろう。

世の中慌ただしい中にも季節は確実の変化して、今は緑の季節になってきた。この季節の変化が今後も続くといいのだが！

2014年10月21日

暫くここに自分の考えを書くこと休んでいた。その間にも世界各地で天変地異、災害、病気の蔓延、等立て続けに起こっている。また民族紛争、と言うより大国の代理戦争に巻き込まれている国々が後を絶たない。日本国内では政治が少しも進まない。安倍内閣の経済政策も有効な手が打てないまま、景気に明るさが見えない。最も自分では緩やかに景気が回復していると自賛しているが！三本の矢と称して景気対策を繰り広げてきたが三本目の最も重要な矢が何処に行ったのか判らない。このため上に向けてはなつた矢が自分めがけて戻ってきたような感さえある。むろんマスゴミは不都合な真実など話題にもしない。御嶽山の噴火による被害が大きかったにもかかわらず、噴火の警報すら出せなかった気象庁、噴火予知連の予知は難しいの一言で、本来は避難警報が出せたにもかかわらず誰も攻めない。政府の対応でさえ問題ではないかと思われる。

国会はと言えば選挙資金の不明朗会計を糾弾することに時間を費やしてばかりで、本来の議論など何もないような感じさえする。特殊情報保護法や集団自衛権の議論も聞かれず。現況の景気の先行きさえ緩やかに上向いているから良いでしょう等とお茶を濁す一方で、結局物価急上昇に歯止めがかからない。

マスゴミもこうした報道を避けているものだから、危機感を持つ人が少ない。フクシマ原発の後始末も結局遅滞として進まず、放射能の飛散が続くばかり、巷では東京もチェルノブイリの放射能仮区域と言われているのに。フクシマ原発の報道ではドイツ、アメリカを始め海外の報道の方が的を得て詳しい。オリンピックどころではなくなるかもしれない。誰が自国の選手を放射能の高い国に派遣するのだろうか。大きな問題でもこれ以外にいくつもあるが、議論に上らず、ろくでもない選挙資金問題に明け暮れている。こんな問題裁判に掛けて警察権力で事実関係をつまびらかにして裁判に掛ければいいことだ。国会で尋問などと馬鹿ではないかと思う。

おおざっぱなことしか述べられず、別途少しずつ私の意見を述べていこうと思う。

2013年10月11日

今日も10月だと言うのに暑さが厳しく、多分気温が30℃を超えるような場所がありそう。日本

は猛暑で辟易と言ったところですが、世界各地で洪水、低温、旱魃、等の異常気候が続いている。ここでは今アメリカに異常事態が起こっている事を示しておこう。

アメリカの今年の夏は異常低温といわれ、特に中部を中心に低温災害が発生していた。また10月に入ってから、ワイオミング等では雪嵐による積雪があり、やはり近年にない異常気象となっておるようです。このほかに南西部では乾燥による山火事の発生、等アメリカは今こうした異常気象のオンパレードのようです。恐らく穀物類の生産状況も思わしくなくなると思われ、日本を始め食料の不足も顕著になるのではないかと思われます。

また自然現象ではイエローストーン公園のイエローストーン火山の様子はどうやら活発化してきていると言われており、一部では土地の隆起やら群発地震やら不穏な状況が続いている様子。イエローストーン火山は超火山と言われており、これが噴火するとアメリカの2/3が居住不可能と言われており、世界的にも火山灰による寒冷化が起こるといわれています。世界を見ますとカムチャッカ半島のクリチエフスキー火山が噴火して6000mの噴煙を上げているとか、パキスタンやドイツでの島の隆起とか、世界各地での地面の陥没とか地球の活動が活発化しており、イエローストーンの火山も噴火も近いのかもれません。

アメリカでは一方で社会不安も広まっているようです。アメリカの補正予算が採決されず、公共機関の閉鎖が続いており、貧困者対策のフードスタンプ等の発行も滞っているとのこと。また17日には債務超過法案が決まらなるとデフォルトを起こす状況にもなっている様子。アメリカではこれらの不測の事態に備えて、暴動防止対策としてFEAM等の機関が鎮圧体制に入ったとか、国内の社会的な緊迫状態になっているとのこと。中東の暴動よりも自国の暴動を警戒している模様。ここ数日アメリカの様子に目が放せないといったところか見知れません。アメリカがおかしくなれば日本は当然大混乱となるし、中国は崩壊の危機に立たされることになりそうです。

暫く要警戒ですね。

2013年9月09日

今日は夏の暑さも漸く一息つき始めたように感じる日になりました。この暑さも地球温暖化の影響だと感じられるかも知れませんが、世界はどちらかと言うと寒冷化の傾向にあるように思われます。別のファイル世界気候、自然異常ファイルに示したように、今年アメリカでの平均気温が例年より低く、このため竜巻の発生件数も減少していると言われております。過去にIPCCによる地球温暖化が騒がれておりましたが、このIPCCの温暖化に関するデータが捏造だったとか、IPCCが人為的なCO2増加説をでっち上げたのは、利権がらみの陰謀だったとか噂される中、一時は北極、南極の氷床が減少あるいは消失したなどと騒がれて、やはり温暖化に向かっている証拠と騒がれておりましたが、2013年の南極、北極の氷床面積は過去最大に達していると言われております。また太陽活動も弱まり、このことから、地球は寒冷化に向かっている、温暖化の原因はCO2ではないことがいわれています。

ただ日本は今年は確かに暑かったし、日本を取り巻く海洋の温度が上がっているとも言われており、温暖化に向かっているように見えますが、世界は上記のようにむしろ寒冷化、小氷河期に入ったとも言われております。恐らく日本の暑さは一時的な、日本周辺の気圧配置がたまたま日本に温風、湿気を送り込むようになったためと思われ、今後中国の真夏に雪を降らせた寒気が優勢になると、一気に寒くなるのではないかと思われます。

CO2増加を人為的とみなされたのは、利権が絡む連中が温暖仮説を振りまき、本来真偽をたずためたマスゴミがやはり利権がらみの状況の中で、情報隠蔽やら積極的に調査しない状況になっていると思われます。インターネット上のブログがどこまで正確な情報を流しているか疑わしいこともあります。今のマスゴミ、政府広報をそのまま信ずべきではないかと思えます。世界はもっと劇的に変化しています。

オリンピック招致が成功したようです。首相の汚染水質疑応答が良かったなどという意見もありますが、とても首相が言ったような状況にはないとおもわれます。現状では手の施し様がない状況です。マスゴミは少しもこうした危機感を報道しません。今原発は非常に微妙な状況で、場合によっては福島

だけではなく関東地方の住民全員避難という状況になりかねません。他国のマスコミの方が的確に福島
の現状を報道していると思います。I O C総会で約束となった、汚染水の安全対策だけでも解決できる
かわからない状況だと思います。この問題に加え、日本はこれから益々問題が多発するのではないかと
思います。オリンピック招致で日本が抱える問題はまだまだあります。一つは関東、及び東南海地震の発生、
富士山の噴火、経済破綻、と懸念材料は山積みです。これらは今後7年以内に起こる可能性が大きく、
2020年オリンピック中ということもありえます。オリンピック開催は日本に希望と夢を運んでくる
ことは歓迎するものの、これから起こることが懸念されます。それ以上にマスゴミ、政府が情報を隠蔽
してるものが何より問題かもしれません。

一方門私の周りでは電通大体育館前の桜の古木がいつの間にか切り倒されてしまったことがくや
まれました。例年ほかの染井吉野に比べ1週間以上早く咲いていたのに誠に残念です。何が目的か判り
ませんが、最近また体育館脇の木々が全てきりたおされてしまい、無残に切り株だけが残っており
ます。推測ですが体育館の立替をやるために邪魔となるのかもしれない。ですがもう少し考えて欲
しかった。単に人間のエゴだけで切り倒してしまった様子。少し金は掛かりますが移植するとか、ど
こかに残すとかして欲しかったと思います。大学と言うものがこの程度のものかと情けなくなり、また今
の大学教育も然りと思ひ至ったものです。

最近「宮崎アニメの暗号」という新書を読みましたが、ここに述べられていた人と自然の対称性が
崩れ、最近是非対称、それも人が自然を支配しているようになってしまったと述べられており、このこ
とが我々の社会の行き詰まり感を増大させていると思われました。世界の文化も古代は人と自然が対称
的であったといわれていますが、ローマ帝国、それに伴う、偽キリスト教の蔓延のため世界はいち早く
非対称化してしまったことに比べると、日本は今に至るまで対称的な自然を育てこられた状況と思わ
れます。世界が日本に注目するのは正にこの部分であり、彼らの文化が後戻りできなくなった状況に対
してであると思われます。宮崎アニメのテーマは実にごうした日本文化の真情を見事に表現したこと
にあり、宮崎アニメが世界に賞賛される文化となったことにあると思います。

世界が求めているのは人と自然が非対称かしてしまい、行き詰まり感のある中で、日本が世界を先導
する役割を与えられているのかも知れません。今の制御しきれなくなった原発を初め、日本の今後のあ
り方を今一度考え直してもいいのではないかと思います。

アニメ好きの私としては、いいアニメは宮崎アニメに限らず、こうした人と自然のかかわりを見
据えているものも多々あります。今の学校教育で碌でもない教科書を使って、ゆとり教育は失敗だった
などと言う役人とか、碌でもない教師が教育を行うくらいだったら、こうしたいいアニメを教材にした
教育をしてもらいたいものです。今のTV番組と比べたら雲泥の差があると思われ、これからの子供た
ちに人と自然のかかわり方を考えさせる事でも有益だと思います。

幾つかのテーマを取りとめもなく並べてしまいましたが、長くなるので一旦ここで筆を置きます。
個々のテーマはまた後日詳しくということ。

2013年5月1日

今朝のTVのモーニングバードで玉川氏が担当しているタマペディアと言うコーナーで自民党が
推進する憲法改正の実態についてやっていた。このコーナーは最近のTVでは珍しく世間の問題を掘り起
こして実態を伝える番組であり、参考になる。今日は憲法改正についての意見を述べていた。概ね私も
同意見であり、憲法改正は充分議論して改正するのはいいとしてももっと重大な点が改正に必要な賛成
票の数である。現憲法では議員の2/3の賛成がなければ、憲法改正は出来ないとされているが、自民
党はこれではなかなか憲法改正が出来ないとして、過半数の賛成があれば改正できるようにこの憲法の
改変事項を修正することを先に行うとしている。この動きは全くの暴挙としか考えられない。何のため
にわざわざ全議席の2/3としたかといえば、正に簡単に憲法を改正できないようにしたはずなのだ。

これを変えてしまったら政権与党のやりたい放題となってしまう。自民党自身が国民の総意の元に憲
法改正を行おうとしていると言い放っているのに、過半数で改憲などしたら、兎も角選挙で議員の過半
数を取ったものが勝ちと言う構図になってしまい、国民の総意などとんでもないことになってしまう。
もともと憲法は改選しにくいようにしてあるはずなのに何の意味もなくなってしまうのではないか！

もっと悪いことに憲法改正の是非を決める国民投票法案もいつの間にか有権者数の過半数から、有効投票数の過半数で可能となる法案が既に可決されているとのこと。投票率が低いと実際の有権者、国民総数の数%でも可決してしまう。国民が投票しないのが悪いので片付けられてしまうことになる。

これを防ぐためにも2/3法案は固辞する必要がある。

しかしながら現在の自民政権は余りにも危険な政権ではないかと思える。憲法改正の項目にはもちろん9条云々の件もあるが、非常に問題なのは個人の権限の制限と言われている。つまりこれまでは個人の権利が優先されていたが、改正案では公益、公の障害になると認めた場合には個人の権限が制限される。例えばデモが公益を害する（当然政権担当者が決めることになる）となればデモを禁止でき違反すれば刑事告訴される。つまり気に入らないものは逮捕処罰できると言うことだ。今の自民党の憲法改正は非常に問題だ。と言っても今の民主党は当てにならないから、今度行われる参院選でも自民とを阻止できないとなると憲法改正が簡単化され、自民の思惑が憲法に簡単に反映されてしまう。これは阻止したいところだ。

ちなみにタマペディアで示されていたが、他国の憲法改正に必要な議員数は現在でも2/3以上となっているところがほとんどということだそう。この憲法改正に伴う手続きの簡素化は何とか阻止すべきことと思う。どうしたらいいのだろうか今のところ判らない。

話は変わるが先日来書いている宇宙並びに地球が騒がしくなっている件は更に加速しているようだ。地球の寒冷化の状況、地殻活動の活発化、また宇宙では土星の北極で起きている嵐が異常に大きいこと、太陽、及び太陽周辺の異常がさらに起きていること、カシオペアザのペテルギウスが既に超新星爆発を起こしたのではないかということ等々。最近の自然界の異常は尋常ではないかもしれない。と言ってもこれについては何の対策も出来ないためただ状況を見守る今年か出来ないが、地球の問題は我々の被害を最小限にすることはできるかもしれない。福島原発事故の後始末はまだまだ収束はしないだろうし、日本の政府はろくでもないことをしている余裕はないはずなのに。もっと地道な動きをしないと何のための政府なのかかわからない。自分で国会議員にでもなって何かをしなければならぬのか！・・・・

福島県の放射能状況調査の結果。少し古いがドイツの福島放射線物質に関する報道などもこのインターネットディスクにアップロードしておいた。この手のことは日本のマスゴミでは全く報道しない。多分日本国民より海外の人のほうが現状を良く知っている。オリンピック日本招致など出来るはずがない。猪瀬知事の発言よりもっと重大だ。わざわざ自国のトップ選手を放射線にさらしてまでオリンピックに出場させないだろうに。

2013年4月17日

調布の天神通り入り口付近にあるおもちゃ屋は七不思議の一つになりそうな店だ。昔からの町のおもちゃ屋らしく、沢山のおもちゃが店一杯に並んでいるが、客が入っているところをほとんど見たことがない。今年の正月3が日の3日の日に仕事で店の前を通りがかった時に、恐らく調布に来るようになってから10年近くなるが初めて子供づれの爺さんが店から出てくるのを見た。初めてである。毎日、休日も店は開いているが品揃えは変わったことはなく入り口付近にプラスチックのボーリングセット、店の奥にキューピー人形が置いてあり、替わったのを見たことがない。良く店を屋っけていけるなど思うほどだ。どこかの学校にでもまとめて卸しているのかもしれないが、普通では既にシャッターが下りた店になっているだろう。

調布にはまだ不思議な店がある、私の行きつけのコーヒー屋なのだが路地裏に入り口があるのだが、看板と言えば10X20cm程度の店名だけが書いてあるもの一つで、多分誰の目に留まることもないようなところ。でも何時行ってもかなり広い店内はオバチャンらしき客が一杯となっている。隠れ家的な場所なので私もよく言っているのだが、口コミで伝わらないと客は来られない店である。付近にあるコーヒー屋など客がまばらなのと比べると良く入っているものだと驚く。

調布にはまだ七不思議に入りそうな場所が沢山ありそう。観覧自由と書いてあるお寺の庭だが、いつも入り口が閉じていて入れないところとか。少し調布七不思議でも作ってみようかと思う。気がついた方は紹介して欲しい。

突然TPPの話になるが、阿部がアメリカでTPP参加に関してアメリカ側と約束してきたときの記

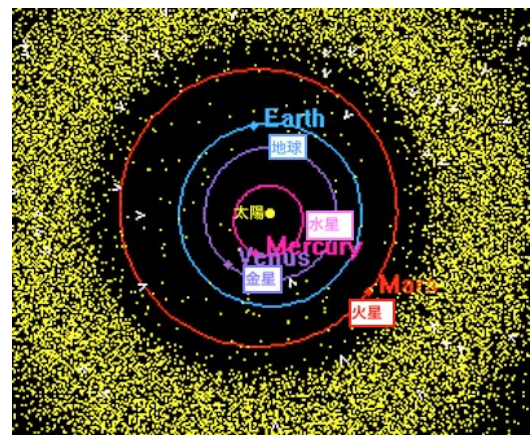
者会見の内容と英語で表記された交渉時の文章との相違がかなりあることが最近伝えられている。当然記者会見は国民向けにいいことばかり、後で日本の要求が盛り込まれるようなことを行っているが、約即時の英文取り交わし内容は全く違っているようだ。もともと後から加わった国が、既に決められたことを覆して自分の思うように出来るはずはないと思うが、多分その通りで農産物の自由化阻止など出来るはずがない。日本はTPPで農産物に対する不利益ばかりを話題にしているが、TPPのもっと問題になるところはそんなことではなく、生命保険、貯金、サービス業、等をはじめとする、いわゆる非関税項目が同取り扱われることではないかと思う。要は他国の企業が、例えば保険会社が日本は皆保険精度があり、参入できないと騒げば、国際法廷で問題となれば、国内法律を変えてでもこの皆保険を無くさなければならなくなるかもしれない。こうした非関税障壁となっている事項を海外、主にアメリカの企業の言いなりになって精度変更を迫られることになると思われる。この方が農産物の自由化などよりもっと問題と思われるが、マスゴミをはじめ関係者は農産物ばかりを争点にして、最重要課題を何も言わない。農産物は確かに当初は大変だが、日本は多分こうした問題はクリアしてしまうと思っている。しかし問題はありながらも日本は皆保険精度があるため、アメリカのように貧者は病気になっても医師に掛かれぬといった事態は起こらない。救急車はたらいまわしが問題となっているが、ただで適当な病院まで運んで早期の治療が出来る。こうした仕組みが恐らくアメリカのようになってしまい、さらに格差が広がるのではないかと思われる。他の行政サービスについても大きく変更されることになるだろう。こうした問題をマスゴミは一切取り上げない。他の問題でもマスゴミの本来の機能が停止しまっている状態で、何とかならないものだろうか？ こうした話題にならない問題がTPPでは重要な問題なので注意をしていく必要がある。今からではどうにもならないのかもしれない、まんまとアメリカの罠にはまったのだろう。阿部ノミックスで浮かれている場合ではないだろう。これもやがてこんなはずではなかった、ということになりかねない状況と思うが……。世も末じゃ。

2013年4月16日

宇宙がなにやら騒がしい様子。2月にロシア上空で隕石が爆発して被害を出したが丁度その日の夜、DA14という小惑星が地球をかすめていったが気づいたのだろうか？ これが通り過ぎた距離は地球からわずか17000Kmのところを通過した様子。ずいぶん離れているじゃないかと思うが、月と地球の距離がおよそ384000Kmあるが、これよりもずっと地球よりを通過して行ったとされている。まさに衝突寸前だったと言われている。最近NASAはこうした小惑星の動きを事前につかむことは困難と言って、衝突しないよう「祈ってください」といったような。

実際、右図の黄色い点で示したのが小惑星、白い矢印が彗星だそうで、これを全て監視することは不可能とのこと。そこで祈りのメッセージとなったと言われています。宇宙も数百年ごとに静穏期と活動期があるようで、今はその活動期にあり、これから益々、色々な事件がおきるのではないかとされています。

このところ太陽活動も不穏な状況となっています。黒点の数から見ると太陽活動が減衰したと言われていますが、一方では異常な状況が起こりやすくなったとも言われております。数日前にも地球から見て太陽の裏に当たる面で大爆発が起こった様子が太陽観測衛星SOHOより送られてきたということです。太陽の裏なので地球に直接影響はないといわれていますが、暫くは要注意かもしれません。宇宙はここ暫く騒がしくなりそうなので注意してください。と言っても何も出来ないのだから静観するばかりですが。まあ地球も活動期とのことこちらの方がなお心配かもしれませんが、まだ対応の仕様があるかもしれません。更に悪いことに福島原発事故も収束するとは思えない状況です。多分こちらは手のつけようがないの



小惑星帯及び彗星



かもしれません。どこかのブログにありましたが、この福島原発事故だけで太平洋全体が放射性物質で汚染されてしまうといわれております。

最近宇宙戦艦ヤマトのリメイク版アニメが放映されていますが、今の世にはイスカンドルのスターシアもいません。まして宇宙戦艦ヤマトもありません。自分らの手でコスモクリーナを作らないと、地球は住めなくなってしまうのではないかと思っています。この地球の活動期を控えて、何の意味もない原発規制法をクリアしたと言って、これから原発の稼働が加速すると思いますが、また第二の原発事故が繰り返されるとしか思えません。福島でさえ収束できないのに、日本ばかりではないので、やはり地球は宇宙戦艦ヤマトを必要とする状況になってしまうのでしょうか？ コスモクリーナは作ってみたいと思っておりますが！

太陽の裏側での爆発の様子
左側の黒い部分が
太陽（太陽面カバー）

2013年3月6日

今日は大分春めいて暖かい、東京は意外と花が多く、梅の花は勿論、万作、馬酔木、等の庭木もそこかしこで咲き始めた。このまま春が深くなっていくといいのだが、東京はこれから環の戻りとともに雪の多い日もあり気を許せない。暖かい日が続いた後、まだ寒い冬の夜に沈丁花の香りがどこからともなく漂ってくるのも懐かしい。4月半ばに入ると一気に青葉の季節になりそうだ。

ところで2020年のオリンピック開催地検討するためのIOC審査員が東京の検証に来ているらしい、連日マスゴミでは行く先々の様子を伝えている。彼らが成田に降り立った時の様子も伝えていたが、小学生を数十人集めて旗を降らせて歓迎している様子を報道していた。何となく違和感を感じた。小学生を動員して、彼らにとってはアイドルでもなんでもないおじさんに旗を降らせて、つまりヤラセを演出して何になるのだろうかと思った。元オリンピックに出場した選手がパフォーマンスを演じて友好的なところを見せ、IOC委員には好評だったと報じている。まあ競技施設と交通の便のいい東京をオリンピックの会場として使うのは理にかなっていると思うが、開催予定地に指定されるか疑問を持つ。

これは東京が放射能で汚染されていることを彼らの方が良く知っているからだ。放射能のために落選するのではないかと思う。日本国民には政府は勿論、マスゴミでさえ放射能の現状を報道していない。多分外国メディアの方が詳しく福島原発の状況を包み隠さず報道しているのではないかと見られる。東京はチェルノブイリの基準で言うと放射線管理区域となると言われ、避難対象になるような状況と言われている。こうした中で各国のトップの選手を集めて競技させることが出来るのかがポイントになるのではないだろうか？ 一度放射性物質を体内に取り込むと、遅かれ早かれ放射性障害が生じると言われている。福島の現状は2年経って大分人体への影響が増え始めている様子。これらは日本では報道されない。今後日本よりまともな海外メディアの報道も検討対象に入ると思われるため、東京でのオリンピック誘致は今回も失敗に終わるのではないかと思う。たとえ誘致に成功したとしてもオリンピックに参加しない選手が続出するのではないかと思われる。IOCの選考委員会は環境問題も考慮対象となるみたいだから。もしこのことが理由で落選したら、東電をはじめ、日本政府、マスゴミはどう言い訳するのだろうか？ 下手なパフォーマンスなどしているより、よほど放射能対策をどうするのか検討すべきではないかと思われる。多分このことが選考の話題になると思われるから。オリンピックではテロ対策に匹敵する問題として検討されるのだろうか。案外トルコ辺りが選ばれるのではないだろうか！

2013年2月9日

前回は宇宙の様子が騒がしくなってきたことを述べたが、それに劣らず地球の様子も騒がしくなってきた。マスゴミは少しも伝えないので、少し下記に条項を示す。

まず気になるところでは、以前挙げたと思うが、地球の活動が活発化していると思われる。一つはオーストラリアプレート境界のマレーシア付近で海底が1日で400mの隆起があったのではないかと

いう知らせである。実際にはこの付近の津波観測所での水深測定で明らかになったということだが、ゆっくりと海底が上昇したようだ。またこのところ環太平洋火山帯の火山の噴火が増えている。最近ではカムチャッカはんとうの3つの火山が同時に噴火した。この地域での大型地震も増加している。つい先日ソロモン諸島でM8の地震があったばかりだ。

一方で気象異常の知らせは毎日のように入ってくる。中国では各地で異常寒波と豪雪の被害。フィリピンでは洪水。ヨーロッパ各地も寒波と豪雪の被害が出ている。イスラエルの嵐と洪水。オーストラリアの異常高温、南極の異常高温による氷床の融解、アメリカ西部の低温と早魃、ここ数日でも、今度はアメリカ北東部で冬の嵐、マサチューセッツ州ではこのため非常事態宣言が出され、車の走行禁止令等が今も出されているようだ。地球全体としては温暖化よりも寒冷化の兆候。イギリスの気象庁でも温暖化は16年前に終了したとの報告がなされたとか！前回の太陽活動の異変とあわせると1700年前後のマウンダー小氷期と似ている状況といわれている。このときはイギリスのテムズ川が凍り、日本でも飢饉が発生した次期である。また中国をはじめ突然シンクホールが発生したとかの報道も多くなっている。地球の変化については磁極の移動が大きくなっており、同時に地磁気が減少していると言われている。磁極の移動は十数年前から始まっており、その移動速度が年々速くなっていると言われ、過去に起こった磁極の反転が起こるのではないかとされている。ポールシフト等で検索してみると様子がわかると思われる。

いずれにしても宇宙の活動、特に太陽活動と切り離せない事項でもあるため、前回と合わせて様子を見ていくことになりそう。2013年は忙しい年となりそう。

備えあれば憂いなしとあちこちのブログで話題となっている。非常食等の情報が（正しい情報を探すブログ等に載っていたので参考に。

2013年2月6日

暫く更新が途絶えて居りました。やや仕事が忙しく更新する余裕がありませんでしたが、宇宙の様子がやや騒がしくなってきました。

やはり In Deep 氏のブログに月面基地（エイリアン?）の話題が載っておりました。米議会でこの問題が取り上げられ、今までNASAによって改竄されてきた月面の異常現象が次々に明るみに出てきたと言う記事、また中国も彼らの月探査衛星の写真を数ヶ月以内に公開すると話していると言う記事が載っておりました。InDeep 氏のHPは下記にあります。また InDeep 氏のブログでは火星に水があるのではという火星探査機キュリオシティの写真を載せています。

<http://oka-jp.seesaa.net/article/313452144.html> 月面

<http://119110.seesaa.net/category/14768348-1.html> 火星

これまで隠されていた月面の異常現象、UFOなどが公開されるのではないかと期待しています。そういえば日本の月観測衛星（かぐや）の映像もほとんど公開されていないのでは思っています。高額の税金を投入しているのだから公開すべきと思いますが、NASAに牛耳られているのでしょうか？

次は太陽の話題です。先の InDeep 氏のメモにも載せられていますが、天文学特に太陽に関して詳しい常田佐久と言う方の本を最近読みました。新書版ですが最近の太陽の異常を伝えるとともに、日本の太陽観測衛星、ようこう、ひので が世界でもトップの観測衛星であり、これによる最近の太陽観測により、次々とこれまでにない異常と基礎データを伝えてきており、この分野は今、日本が独創しているとのこと。この影響により地球は今後小氷河期に向かうかもしれないことが伝えられています。

また小惑星が2/15頃地球に再接近することも話題になっております。今まで予測されていた軌道が太陽圏に入ってからすこしづづれてきているとのこと。またこの小惑星についてはこれまで話題になっている、太陽の第10番惑星 プラネットX、あるいはゼカリアシッテンにより述べられたニビルと言う惑星ではないかとも言われております。この小惑星については暫く目が離せないかもしれません。

やはり日本のメディアでは何も紹介されませんが、今宇宙はいろいろの話題で賑わっている状況です。

何れも地球に影響を与える話題なので要注意です。
取りあえず本日はここまで紹介です。